



向島中学校区 < 3 学区合同 > 小中一貫教育校創設協議会だより

※向島中学校区の3学区とPTAで組織する協議会が発行しています。

第14号

平成29年10月発行

第14回「創設協議会」を開催

平成29年9月13日(水)に創設協議会(第14回)を開催しました。通学安全対策や校名の地元最終案の検討、PTA組織や教育構想の検討状況などについて協議を行いました。

校名地元案は「向島秀蓮(むかいしましゅうれん)」に決定!

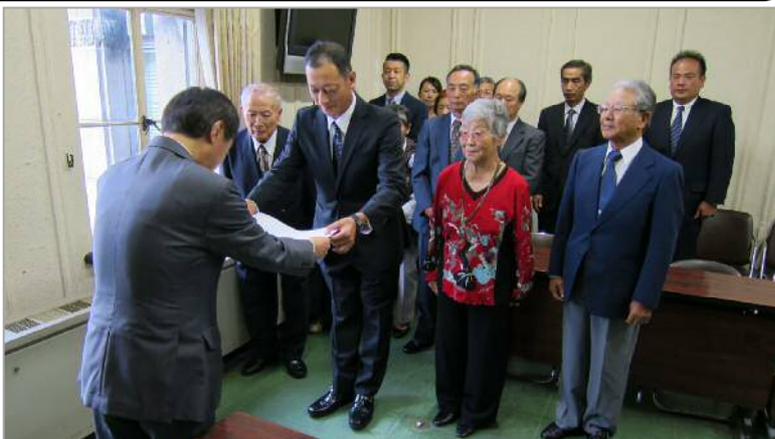
～校名要望書を京都市教育委員会へ提出!～

平成31年4月の開校に向け、最終的な地元校名案について各校PTAや創設協議会で検討を進め、第14回創設協議会において、「向島秀蓮」を校名地元最終案とすることを決定しました。

9月20日(水)には創設協議会のメンバーが京都市役所を訪問し、校名を「向島秀蓮」とすることを求める要望書を在田正秀京都市教育長に提出しました。

在田教育長は「頂戴いたしました要望書を尊重し、『向島秀蓮』という校名で市会にお諮りしたい」と述べられました。

今後、京都市会にて校名案をご審議・議決いただいたうえで、校名が正式決定される予定です。



<選定理由>

「蓮」の名所であった巨椋池や、向島城などの地域の歴史にちなんだ校名案の応募が多数あり、「子どもたちが地域の歴史に誇りと愛着を持って、志高く学業に励み、秀でた人に成長して、未来に向かって大きく羽ばたいてほしい」という広く地域の願いが込められた校名と考えられる。また、語感と響きが良く、字形も美しいため、子どもたちと地域の皆様に愛着を持っていただけると期待できる。

秀 — 部首の「禾」は稲穂が垂れた形 禾 を表し、高く伸びる・成長する、他より抜きん出る・優れているなどの意味がある。

蓮 — 多様な動植物の生息地として豊かな環境を育み、人々に恩恵を与えてきた“巨椋池”は、「蓮」の名所であった。



新校舎の建設に向けて、起工式が挙行されました!

9月7日(木)、向島二の丸小において、新校舎建設工事起工式が盛大に挙行されました。

式典には、門川大作京都市長、寺田京都市会議長をはじめとする関係者の皆様、地元3学区の皆様、各校のPTA会長・役員など、合わせて約120名が参加し、起工を祝いました。

二の丸北小の解体工事への近隣・周辺住民の皆様方、工事車両の通行経路近辺の皆様方のご理解とご協力に心から御礼申し上げます。

これからも新校舎建設工事等で重ねてご迷惑をおかけいたしますが、引き続き、ご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



新校舎の主な特徴



＜東側道路からの外観図（イメージ）＞

- 校舎，体育館棟を敷地北側に配置するとともに，校舎を斜め配置とすることにより，1年生から9年生までの9学年すべての普通教室を校舎南面に確保した，明るく開放的な学習環境。
- 地域の方々の利用も考慮した交流ホール，学年単位の集会や学習発表等の多様な教育活動を展開できる交流スペースなど，学級・学年・学区を超えた交流を図る校舎配置。
- 東側の道路に面してガラスを用いたシンボル性を兼ね備えたデザインとし，西側については校舎の形状を階段状に，北側については曲面による柔らかな表情とすることにより近隣への圧迫感を低減する意匠計画。
- 太陽光発電や雨水利用，クールヒートチューブ（温度が安定した地中熱により夏期は予冷，冬期は予熱した取入外気で換気）の採用など自然エネルギー等の積極的な活用。
- 内装の木質化，クラブ棟の木造化に加え，外構に木質舗装製材ブロックを採用する等の木材利用計画。
- 水害時における避難所利用を想定し3階に配置された体育館，屋外プール用水の災害時利用及び非常用発電機の設置などの防災機能。
- 地震時の安全性を考慮した，教室や廊下等の天井レス化。



＜北西方向からの鳥瞰図（イメージ）＞

ご意見やご質問などがありましたら，各学校までお寄せください。

■ 向島南小	TEL 602-2824	FAX 602-2825	e-mail mukajimaminami-s@edu.city.kyoto.jp
■ 向島二の丸小	TEL 622-9001	FAX 622-9045	e-mail ninomaru-s@edu.city.kyoto.jp
■ 向島中	TEL 623-0512	FAX 623-0513	e-mail mukajima-c@edu.city.kyoto.jp